

# 「SPI」のソボクな疑問 Q & A

「SPI」対策のご指導をされる際に感じられることの多い疑問について、まとめてご紹介します。

## Q1 「SPI」とはどんな検査ですか。

### A 仕事をする上で必要な資質を総合的に測定する検査です。

「SPI3(エスピーアイスリー)」とは、リクルートキャリア社が提供している適性検査です。仕事をする上で必要とされる資質を総合的に測定しようとする検査で、この分野でのシェアは国内トップといわれています。人材採用時だけでなく、入社後の適材適所を目標とした配属先の資料にされる場合もあるそうです。 ※「SPI」は、Synthetic Personality Inventoryの略。

全国で約11,900社、受検者数約189万人と(2016年度:リクルートキャリア社のホームページより)、多くの企業の採用試験において取り入れられており、メーカー・商社・金融・自治体など、さまざまな業界において大企業・中小企業に関わらず導入されています。高校生の採用試験でも利用されるようになり、特に志望者が集中する企業では、絞り込みの

ためにも使用されているようです。

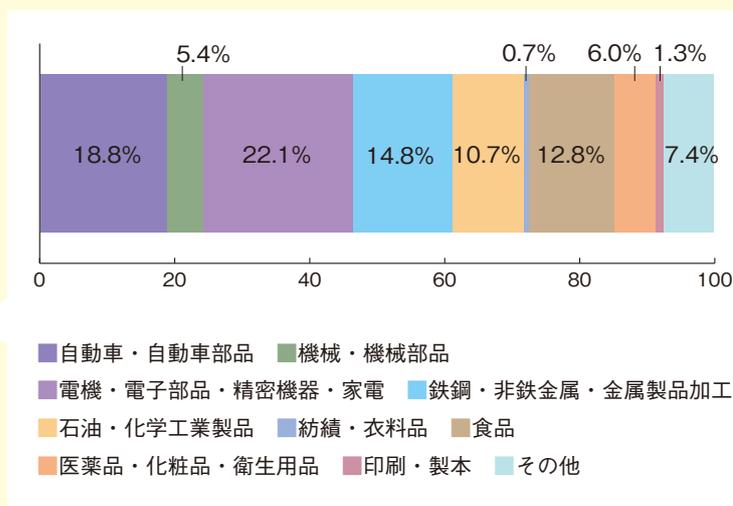
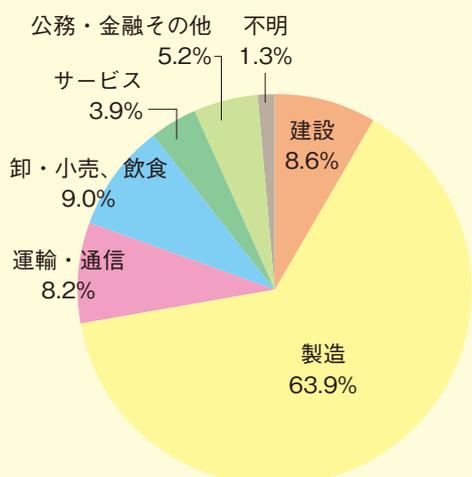
「SPI3」の実施方法は、従来のマークシート方式(ペーパーテスト)のほか、パソコン上で行われるものもあります。後者はさらに受検場所によって、テストセンター(リクルートキャリア社が設置・運営)、インハウスCBT(受検する会社のパソコンを使用)、WEBテスト(受検者の所有するパソコンなどを使用)に分けられます。どの方式で受検するかは企業により異なります。

なお、「SPI3」は2014年に発売された、「SPI2」のバージョンアップ版ですが、能力検査については変更がありません。当社発行の能力検査対策教材においては、「SPI」という名称を使用しています。

当社  
独自調査

## こんな業種で使われている

### ◆「SPI」実施企業の業種別割合



当社のSPI模擬テストのご利用校に実施したアンケートで、ご回答いただいた233社を業種別に見てみると、製造業が約6割を占めており、その中でも自動車や機械、電機メーカーの名前が多く挙げられていました。また、大企業のグループ会社が多かった一方、地元の中堅企業での実施も報告されており、幅広く採択されていることがわかります。

## Q2

# 「SPI」ではどのようなことを見るのですか。

## A

### 能力検査では基礎的な知的能力を、 性格検査では思考・行動特性を見ます。

「SPI3」は大きく分けて能力検査と性格検査に分けられます。能力検査では、企業の業務で要求されるコミュニケーション力、数的処理力や論理的思考力の基礎となる能力などが見られます。能力検査は、受検対象や測定内容によって下の表のようなタイプがあり、高校生対象の採用試験で

は主に「SPI3-H」というテストが使用されています。

性格検査では、企業の求める人材かどうかの判断基準となる受検者の考え方や行動パターンを、行動的側面・意欲的側面・情緒的側面・社会関係的側面から測定します。なお、性格検査はどのテストでも共通です。

### ◆SPI3の種類

テスト名	主な対象	能力検査の内容
SPI3-U	・大学新卒	基礎能力(言語・非言語)
SPI3-A	・大学新卒	基礎能力(言語・非言語) ※SPI3-Uの短縮版
SPI3-B	・大学新卒 ※基礎能力を細かく測定	基礎能力(言語的理解・論理的思考・数量的処理)
SPI3-G	・キャリア採用応募者	基礎能力(言語・非言語)
SPI3-H	・高校新卒	基礎能力(言語・非言語)
SPI3-R	・大学新卒／短大新卒 ・非定型的な業務を含む事務職	実務基礎能力(実務処理能力・基礎能力)
SPI3-N	・短大新卒／高校新卒 ・定型的な業務を行う事務職	事務能力(漢字の読み書き・計算・事務処理)
SPI3-US*	・大学新卒	基礎能力(言語・非言語)・構造的把握力
SPI3-UE*	・大学新卒	基礎能力(言語・非言語)・英語能力
SPI3-USE*	・大学新卒	基礎能力(言語・非言語)・構造的把握力・英語能力
SPI3-GE*	・キャリア採用応募者	基礎能力(言語・非言語)・英語能力

\*テストセンターのみでの実施

## 「SPI」の合格ライン？

「(「SPI」で)どのくらい得点できれば〇〇の企業に合格することができますか」という質問をいただくことがあります。同じ企業でも年度によって募集人数や応募者数が異なり、求める人物像の傾向も変動するため、「△△ならば合格」というような**一定のボーダーラインはありません**。リクルートキャリア社によると、「SPI」を実施した企業には、受検者の人柄について総評した上で面接時のチェックポイントを提示する報告書を送付しており、各企業の担当者はこの報告書を資料として面接を進めていきます。このことから、「SPI」は受検者をふるい落とすものというよりは、**企業が必要とする人材を見極めるためのツールの一つ**であると言えるでしょう。

ただし、能力検査は仕事をする上で必要となる基礎的な能力を測るものなので、できるだけ高得点がとれるように力をつけておくことが大切です。

### 人事担当者からひとこと

長年面接官をやっていると、「SPI」の結果から受検者の  
だいたいの人物像がわかるようになるんです。



# Q3

## 能力検査とはどういうものですか。

# A

## 国語領域、算数・数学領域についての基礎能力を測定する検査です。

能力検査(検査時間70分)は言語分野、非言語分野に分けられ、以下のような構成となっています(検査時間はペーパーテストの場合)。

### 言語分野 30分／50～55問程度 5～6つの選択肢からの択一式

国語的分野に関する出題です。企業の業務では、対人折衝や意思の伝達、文書作成など言語を通しての活動が多いため、言語的理解力がどの程度備わっているかを測定します。

具体的には、対義語・包含関係といった語句に関する問題、要旨の理解や接続詞を問う長文読解などにより、基礎的な語彙力や文章読解力を試します。

#### 問題例

**対義語** 太字で示された語の意味と最も反対の意味になる語を選べ。

- |           |      |      |      |      |      |
|-----------|------|------|------|------|------|
| <b>安価</b> | A 単価 | B 特価 | C 原価 | D 高価 | E 時価 |
|-----------|------|------|------|------|------|

正答 D

**2語の関係** 太字で示された2語の関係を考え、同じ関係を表す対を作れ。

- |               |           |        |      |
|---------------|-----------|--------|------|
| <b>コート:防寒</b> | カメラ:A 撮影  | B レンズ  | C 映写 |
|               | D デジタルカメラ | E 精密機械 |      |

正答 A

### 非言語分野 40分／40問程度 8～9つの選択肢からの択一式

算数・数学的、論理的分野に関する出題です。企業では、経理だけでなく、企画、販売、生産管理など、さまざま部門で統計的な処理・分析といった業務を行います。非言語分野では、そういった業務に不可欠な、数的処理能力や論理

的思考能力について測定します。

出題内容は、小学校～中学校+高校1年生レベルの知識を用いた、加減乗除など基礎的な計算問題や文章題、推論などです。

#### 問題例

**金銭計算** ある美術館の入館料は1人400円であるが、20人を超える団体の場合、超えた分について1割引となる。32人の団体の場合、入館料の総額はいくらか。

- |           |           |               |           |           |
|-----------|-----------|---------------|-----------|-----------|
| A 8,120円  | B 8,480円  | C 10,200円     | D 10,400円 | E 11,520円 |
| F 12,200円 | G 12,320円 | H A～Gのいずれでもない |           |           |

正答 G

**推論** P、Q、Rの3個の箱がある。PはQよりも軽く、Qの重さはPとRの重さの和に等しい。このとき、次の推論ア～ウのうち、必ず正しいといえるものはどれか。A～Hから1つ選べ。

- |             |       |       |                 |          |          |                 |                         |  |
|-------------|-------|-------|-----------------|----------|----------|-----------------|-------------------------|--|
| ア:RはQよりも軽い。 |       |       | イ:QはPよりもRよりも重い。 |          |          | ウ:PはQよりもRよりも軽い。 |                         |  |
| A アだけ       | B イだけ | C ウだけ | D アとイの両方        | E アとウの両方 | F イとウの両方 | G アとイとウのすべて     | H アとイとウのいずれも必ず正しいとはいえない |  |

正答 D

# Q4

## 性格検査とはどういうものですか。

# A

## 受検者の思考・行動について、 情緒面・行動力・積極性などを測定する検査です。

性格検査(ペーパーテストの場合、回答時間約40分)は受検者の性格特性を行動的側面・意欲的側面・情緒的側面・社会関係的側面の4つの側面に分けて測定します。これらはさらに、下の表のように分類されています。

質問項目は、設問例のように、2つのタイプに分かれています。どちらのタイプでも、4段階の中から自分に近いと思うものを選んで回答していきます。回答時間に対して質問

項目数が多いうえ、全項目への回答が必要となるため、深く考え込まずに次々と回答していかなければなりません。また、「SPI」の性格検査では、受検者が自分をよく見せようとする傾向をチェックする仕組みが導入されています。よって、偽った回答をしている場合、応答態度で「自分をよく見せようとする傾向がある」と判断される可能性があります。

### ◆性格検査の尺度

側面	尺度	尺度内容
行動的側面	社会的内向性	対人関係における積極性、社交性
	内省性	思慮深さ、物事を深く考えることを好むか
	身体活動性	体を動かすことを好むか、フットワークの軽さ
	持続性	粘り強さ、忍耐力
	慎重性	見通しをつけながら物事を進められるか
意欲的側面	達成意欲	大きな目標を持ち、仕事にやりがいを求めるか
	活動意欲	行動の機敏さ、決断の素早さ
情緒的側面	敏感性	感情の細やかさ、心配性か、周囲に敏感か
	自責性	優しさ、受容的か、悲観的か、くよくよするか
	気分性	感情の起伏が激しいか、感情表現の豊かさ
	独自性	独自性を大切にするか、周囲への関心が薄いのか
	自信性	自尊心の強さ、強気、自己防衛的か
	高揚性	調子のよさ、楽天的な傾向、落ち着きのなさ
社会関係的側面	従順性	他人に対して従順な傾向があるか
	回避性	他人との摩擦を避けようとする傾向があるか
	批判性	意見の異なる人に対して批判的な傾向があるか
	自己尊重性	自分の考えを尊重する傾向があるか
	懐疑思考性	他人に対して懐疑的な傾向があるか

### 設問例

次の質問項目について、「あてはまらない(1)」「どちらかといえばあてはまらない(2)」「どちらかといえばあてはまる(3)」「あてはまる(4)」のいずれかで答えてください。

- ①一度決めたことはやり遂げるほうだ。      (1) (2) (3) (4)
- ②多くの人に会う集まりは楽しい。      (1) (2) (3) (4)
- ③じっくりと考える仕事が苦にならないほうだ。      (1) (2) (3) (4)

次の質問項目のペアについて、ふだんの自分の考えや行動に近いものを、「Aに近い(A)」「どちらかといえばAに近い(A')」「どちらかといえばBに近い(B')」「Bに近い(B)」のいずれかで答えてください。

- ①A よく考えてから行動する。      (A) (A') (B') (B)      B 思いついたらすぐ行動する。
- ②A しぶとい。      (A) (A') (B') (B)      B さっぱりしている。

## Q5

能力検査ではそれほど難しい問題が出題されていないようですが、対策は必要ですか。

## A

「SPI」の出題傾向に沿った対策をすることをお勧めします。

「SPI」の能力検査は、小学校～中学校＋高校1年生レベルの基礎的な知識をもとに解ける出題となっていますが、次のような特徴があります。

### ① 「知識」よりも「知能」が問われる

企業にとっては、仕事を進める上で必要な資質や能力が備わっているか、論理的にものごとを考えて知恵を働かせる人なのか、採用するうえでの大切なポイントとなります。よって、「SPI」能力検査は一般的な「知識の量」より「知能」が問われる検査といえ、より多くの知識を蓄えた人が高得点を取れるというものではありません。

たとえば言語分野の「2語の関係」の問題の場合、語句の意味についての正しい知識も必要ですが、言葉どうしがどのようなつながりを持っているかにまで踏み込んで考えなくてはなりません。基礎的な知識をもとに解けるレベルではありますが、問題を解くには、知識だけではなく判断力や応用力も必要とされます。

### ② 制限時間の割に問題数が多い

言語分野も非言語分野も難問というような問題は出題されませんが、試験時間の割に数多くの問題が出されます。単純に計算すると、言語分野は1問35秒程度、非言語分野は1問60秒程度で解かねばなりません。

### ③ 独特の出題形式をもつ問題が含まれている

通常の学校の授業や試験ではあまりなじみのない、特殊な設問形式の問題が含まれているため、本試験で初めて目の当たりにすると、「動揺してしまい、あまり解けなかった」という結果になってしまいます。

能力検査の問題はある程度パターン化されているので、事前の対策を行った場合と行わなかった場合とでは、結果がかなり変わってきます。本番で十分に実力を発揮するためには、「SPI」能力検査に的を絞った準備が必要となります。

## 「SPI」対策は、民間就職以外の進路希望にも役立つ

### ① 公務員志望者への「一般知能分野」対策のスタートに

「SPI」能力検査は、教科としては国語、算数・数学に分類できますが、むしろ公務員試験の教養試験における一般知能分野(文章理解・判断推理・数的推理)に近いといえます。実際に、一般知能分野対策の手始めとして、公務員志望者も一緒に「SPI」能力検査対策を指導しているという学校もあります。また、近年では公務員採用試験に「SPI」を取り入れている自治体も増えています。

### ② 進学希望者への国語・数学の基礎能力指導に

希望進路が進学であっても、言語分野(国語領域)と非言語分野(算数・数学領域)の基礎能力を鍛えておくことは今後の受験勉強において役立ちます。また、上級学校進学後の就職活動の際に必要な「SPI」対策の意識啓発にもつながるため、生徒の将来を見すえた発展的なキャリア教育の一環として、「SPI」対策のテスト等を経験させておくことをお勧めします。

